

2017年度第1回にいがた摂食嚥下障害サポート研究会主催講演会開催報告

新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催
一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 後援
新潟県歯科医師会 後援
新潟県言語聴覚士会 後援

テーマ 「研究から見えてくる臨床」
日時 平成 29年 5月 20日 (土) 13時～16時 30分
場所 新潟県歯科医師会館
参加者数 91名 (会員 70名, 非会員 15名, 学生 6名)
参加企業 7社

タイムスケジュール

13:00-13:05 開会あいさつ
井上 誠先生 (新潟大学 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授)

13:05-14:05 座 長 辻村恭憲先生 (新潟大学摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授)
講演1 『3次元で見る』ということ 嚥下動態・病態理解の発展
講 師 稲本陽子先生 (言語聴覚士, 藤田保健衛生大学)

14:05-15:05 講演2 大学と老人クラブの連携による「食べる力をつける教室」について
講 師 山村千絵先生 (歯科医師, 新潟リハビリテーション大学学長)

15:05-15:20 休 憩 企業展示

15:20-15:40 座 長 白石 成先生 (新潟大学摂食嚥下リハビリテーション学分野 助教)
講演3 新潟大学を離れて
講 師 林 宏和先生 (歯科医師, 林歯科医院)

15:40-16:10 症例報告
座 長 真柄 仁先生 (新潟大学 摂食嚥下機能回復部 講師)
北澤 敦先生 (歯科医師, ひまわり歯科)
小暮ミカ先生 (歯科医師, 明倫短期大学)

15:10-16:30 総合討論
座 長 井上 誠先生 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授)

概 要

本講演会では「研究から見えてくる臨床」をテーマとした2名の講師による講演、「新潟大学を離れて」と題した林宏和先生の講演、新潟大学医歯学総合病院での臨床研修を経験した2名の先生からの症例報告が行われた。

藤田保健衛生大学の稲本陽子先生には、『3次元で見る』ということ - 嚥下動態・病態理解」と題して、高い空間分解能をもつ3D-CT画像を用いた嚥下運動機能の解明の中で、ことに声門閉鎖や食道入口部開大に関する知見を得ていること、臨床応用についての話があった。撮影時間、被曝という問題はあるものの、「みえる」ことが機能の理解と臨床推進にもたらす期待を感じさせるものであった。

新潟リハビリテーション大学の山村千絵先生には、「大学と老人クラブの連携による「食べる力をつける教室」について」と題して、文部科学省の研究支援事業下で、村上市や関川村の高齢者を対象として行ったプログラムによって、高齢者の歩行や摂食運動の維持をもたらすことを目指した事業の紹介があった。ことに食べる力をつける教室では、多くの評価項目が改善していることから、本事業の成果を期待させた。本プログラムはすべての高齢者を対象としているわけではなく、真のオーラルフレイル患者さんをみていく必要があること、事業継続のためのマンパワーなどの課題をもつということであったが、高齢者を多く抱える地域の独自の取り組みとして大変興味を抱くものである。

休憩をはさんだ後、林宏和先生は、自身が勤務する大阪における嚥下障害の臨床拡大と多職種連携に向けた自らの1年間の活動を振り返ってもらった。フットワークとネットワークを基軸とするというモットーは林先生ならではの行動力に基づくものであり、大学で培った経験や知識を地域にいか還元するかというモデルケースとして大変参考になった。

臨床報告では、「嚥下障害専門医育成に向けた取り組み」と題し、新潟大学医歯学総合病院にて研修を行ってきた北澤先生からは自院での症例、小暮先生からは新潟大学医歯学総合病院の症例を紹介していただいた。最後に十分な総合討論を行う時間がなかったものの、以下のアンケートにあげる様々な感想や意見をいただいた。

休憩時間には、企業展示会場にて活発な情報交換が行われた。

今回は直前での会場の変更、演者が歯科医師に偏っていたことに加えて、絶好の行楽日和になってしまった？ことなどから来場者が少なく残念であったが、参加いただいた方には多くの示唆やきっかけをいただけたのではないかと感じている。下記感想を踏まえて、今後の講演会企画を考えていきたい。

参加者によるアンケート結果（有効回答数 50 名 回答率 56%）

1. 参加者の性別

- ①男性 14 名 ②女性 36 名

2. 参加者の年齢層

- ①10 歳代 0 名 ②20 歳代 10 名 ③30 歳代 10 名 ④40 歳代 13 名 ⑤50 歳代 14 名
⑥60 歳代 3 名

3. 参加者の職業

- ①学生 5 名 ②会社員・公務員 2 名 ③医療関係者 40 名 ④その他 2 名 ⑤無回答 1 名

※③の内訳

医師 1 名，歯科医師 7 名，言語聴覚士 13 名，理学療法士 1 名，歯科衛生士 9 名，管理栄養士 1 名，看護師 4 名，無回答 4 名，その他・無回答 1 名

4. 今回の講演会は有意義なものでしたか

- ①まったくそう思う 20 名 ②まあまあそう思う 29 名 ③どちらとも言えない 1 名
④あまりそう思わない 0 名 ⑤全くそう思わない 0 名 ⑥無回答 0 名

5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか

- ①まったくそう思う 15 名 ②まあまあそう思う 31 名 ③どちらとも言えない 4 名
④あまりそう思わない 0 名 ⑤全くそう思わない 0 名 ⑥無回答 0 名

6. 講演内容の難易をどう感じましたか

- ①非常に分かり易い 12 名 ②まあまあ分かり易い 29 名 ③どちらとも言えない 7 名
④あまり分かり易くない 2 名 ⑤全く分からない 0 名

7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

- ①非常に賛成する 31 名 ②まあまあ賛成する 18 名 ③どちらともいえない 1 名
④あまり賛成しない 0 名 ⑤まったく賛成しない 0 名

8. その他の意見

- ・ 会場がとてもとても寒くて、研究会の環境としてはよくなかった。
- ・ CTによる3次元でみるのがなかなかみれないものなので、大変勉強になりました。
- ・ 地域での取り組みの講演は大変勉強になった。林先生の地元大阪での取り組みは非常に積極的で感動しました。またぜひ講演を聞きたいと思います。
- ・ 基礎的な話は専門用語が多くて少し理解しづらい部分がありましたが、臨床だけではなく実際の嚥下のメカニズムなどを改めてくりかえすことができ、良い機会となりました。
- ・ 摂リハ Dr がいない病院で働いています。高齢の患者さんが多く、食事を経口摂取している人でも気管から食残混じりの痰がひけるという人がいて、ひやひやしながら食介をしています。看護師でもベッドサイドでできる摂リハや誤嚥予防ができる方法があれば教えていただきたいです。
- ・ 研究を基にした臨床・実践へとつながっている、そんな例を主にした訪問診療の現場、診療所の取り組みの様子など、臨床現場の講演もあると良いなと思います。
- ・ 専門的な内容もきちんと勉強しようと思いました・・・（そうすればもっと深く講演内容も理解できるから・・・）
- ・ 臨床現場での歯科医師からの報告内容にDHがその場でどのように参加しているか、また現場に望まれるDHの知識技術をきびしく伝えていただけたらありがたいです。
- ・ 空調が効きすぎて寒い
- ・

講演会風景



